

第6回 10月28日(土) 15:00~

ヴァイオリン コンサート

ヴァイオリン：大津 純子, ピアノ：岡田 知子

Neue Bahnen (新しい道) ~ヨハネス・ブラームスと朋友たち

昨年のプログラムは、ドイツ・ロマン派を代表する作曲家であり、評論家でもあったロバート・シューマン(1810~56)を中心に構成しましたが、今回は、そのシューマンに才能を見出されたヨハネス・ブラームス(1833~97)と、彼の朋友たちの作品を取り上げたいと思います。

1853年、『新音楽雑誌』(ライプチヒ)に掲載された<新しい道>と題するシューマンの評論で、“・・・新しい時代を表現する天才、「若き血」の突如の出現・・・”と絶賛されたブラームス。《ドイツ・レクイエム》に代表されるように、彼の作品は誇らしい愛国心と英雄的なドイツ主義、独自の宗教観にしっかりと根差しています。

彼はハンブルグに生まれ、その特出した音楽的才能は幼少より大きな注目を集めました。コントラバス奏者の父、ヨハン・ヤーコブからヴァイオリンとチェロの手ほどきを受けますが、音楽的表現の更なる可能性を求めてピアニストになることを選びます。10歳のときには父親が主旨する室内楽演奏会で、ベートーヴェンの五重奏曲などのピアノ・パートを受け持つほどに上達し、当時のハンブルグ第一の作曲家・ピアニストであったE. マルクスゼンにピアノのほか、音楽理論と作曲を師事します。彼の厳格で、系統立てた教授法の下、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンを研究し、シューベルト、ショパンといった先達作曲家たちの価値を学び、ドイツ民謡に親しみ、変奏曲の本質を知ったことは、後のブラームスの大作曲家としての基盤を確固たるものとししました。また、当時の一流青年ヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒム(1831~1907)と知り合い、彼からシューマン夫妻を紹介されたことが、ブラームスのキャリアを大きく後押しすることとなります。大成してからのブラームスは新鋭作曲家、ドヴォルジャーク(1841~1904)の才能を高く評価し、彼を世に送り出すきっかけを作り、生涯にわたり親交が続きました。

~ プログラム ~

*ドヴォルジャーク：ヴァイオリンとピアノのためのソナティネ 作品100

*ヨハネス・ブラームス

アルベルト・ディートリッヒ：ヴァイオリンとピアノのための F. A. E. ソナタ

ロベルト・シューマン (J. ヨアヒムに捧ぐ)

*チプリアン・ポルムベシュク：バラータ

ほか

(曲目は変更になる可能性があります)

大津 純子 ヴァイオリニスト

東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業後、NYを拠点に演奏活動開始。

ジュネス・ミュージカル・インターナショナル及び、カーネギー・ホール両者による招待にてニューヨーク・デビュー。セントルイス交響楽団、シモン・ポリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他との協演、リサイタル・プログラム：〈The Artistry of Junko Ohtsu〉のパブリックTVネットワークによる全米30都市以上への放映、また、米国でのラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より2年間に亘り特別グラント受賞。国際交流基金派遣にて、ロシア、チェコ、オーストラリアなど、欧州、アジア、中南米諸国にて公演し、絶賛される。

『ヴァイオリンの詩』、『アメリカ』（1998年、『レコード芸術』誌「室内楽準推薦盤」に選出）、『Prelude to a Kiss』などCD5枚をリリース。近年は、執筆・講演などの分野にも活動の範囲を広げている。

2002年、自ら企画・プロデュースする『Good Old Days』室内楽シリーズ：アメリカの〈素敵な時代〉を立ち上げ、日本のクラシック音楽シーンの盲点であった「知られざるアメリカ」にスポットを当てた意欲的な企画として大きな注目を集める。2004年、イラストレーター・和田誠、ジャズピアニスト・佐藤允彦と共に、ジャンルを超えて音楽を楽しもう？ という意図のもと、『Junko and the Night and the Music』シリーズを開始。3人の異なるバックグラウンドを生かしたユニークな企画は大好評を得ている。また、2005年より『大津純子・心のコンサート』シリーズを企画・開催。

岡田 知子 ピアニスト

東京芸術大学器楽科を卒業後、北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルトへ留学。声楽の伴奏、器楽とのアンサンブルを学ぶ。K・シルデ、G・バイセンボルンに師事。1976年同校を首席で卒業。1977年1月ベルリン、メンデルスゾーン・コンクール、ピアノ・トリオ部門第一位入賞。同年10月ジュネーブ国際音楽コンクール、ピアノ・トリオ部門第二位（一位空席）及びスイス特別賞受賞。1978年帰国、以降アンサンブルピアニストとして活発なコンサート活動を続けている。

また来日演奏家との共演、CD録音、コンサートのプロデュース等々、多方面で活躍している。毎夏、草津夏期国際音楽祭、そしてスイスで開かれるチューリヒ・マスター・コースに専属ピアニストとして招かれている。